



# なるほどなっとくニュース

県立山口博物館  
学校地域連携担当

なっとくんの「なるほどなっとくニュース」は、県立博物館ホームページでダウンロードすることができます。

## 山口大学の大賀ハス

1951年、千葉市の落合遺跡で3粒のハスの種が発見されました。そのハスの種を植物学者の大賀一郎が栽培し、花を咲かせ種を取ることに成功しました。その後の調査で、発掘されたハスの実は2000年以上昔のものであることが分かり、大賀ハスと名付けられました。山口大学の大賀ハスは2009年に山口市仁保の源久寺から譲り受けた株を育てたもので、毎年6月中旬から8月中旬まで約3000本もの花を見ることができます。



山口大学の大賀ハス。  
山口大学の正門を入  
って左手にあります。

ハスの花（左）とハスの  
実（上）。  
ハスの花は大きさが20  
cmほどありました。

### ハスの花のつくり



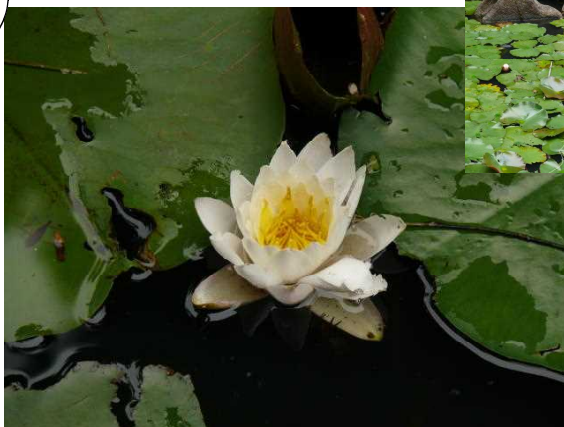
ハスの花の特徴は、多数のめしべが花盤にあることです。また、花盤がめしべの大部分を覆っており、柱頭（めしべの先端）だけが外から見られます。おしべが大変多いのも特徴です。

ハスの地下茎はレンコンとして食べられますが、種子（種）や花盤も食べることができるそうです。

種子が熟し花盤からおちると、残った花盤は蜂の巣のように見えます。ハスという名前は、この蜂の巣から、蜂巣、ハスとなったとも言われています。

今、博物館の周辺では、スイレンやオオカナダモの花が見られるよ。

スイレン



オオカナダモ

